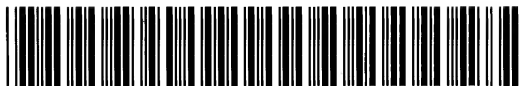


IDS REFERENCES



FOR

整理番号
発送番号 275285
発送日 平成19年 6月12日

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2005-513566
起案日	平成19年 6月 4日
特許庁審査官	上坊寺 宏枝 9834 4F00
特許出願人代理人	三好 秀和 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の記事に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。

2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の記事に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

3. この出願は、特許請求の範囲の記載が下記のとおりで、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

4. この出願は、特許請求の範囲の記載が下記のとおりで、特許法第36条第6項第1号に規定する要件を満たしていない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

<理由1、2>

- ・請求項 1、2、8-13、16、19、22-24、29
- ・引用文献等 1
- ・備考:

引用文献1には、請求項1、2、8-13、16、19、22-24、29に係る発明が記載されている(特許請求の範囲、【0008】-【0015】、【0018】、【0024】、【0028】-【0039】、【0051】、【0053】、図面参照)。

- ・請求項 1、2、8-13、16、19、22-24、29
- ・引用文献等 2
- ・備考:

引用文献2には、請求項1、2、8-13、16、19、22-24、29に係る発明が記載されている(特許請求の範囲、【0009】-【0015】、【0017】-【0028】、【0033】、【0043】、図面参照)。

<理由2>

- ・請求項 3、26-28
- ・引用文献等 1-3
- ・備考:

引用文献3には、表皮を有しその内部に区画を有する発泡体が多数存在する発泡複合体を成形するための発泡性材料の製造方法として、2台の押出機を用いて、発泡材料をロッドで押し出し、この上に被覆する材料を被覆して、溶融している状態で圧縮切断して、両端が閉じられた粒とするのが普通であることが記載さ

れており（特許請求の範囲，【0005】－【0010】，【0014】参照）、技術分野が共通するから、引用文献1、2に記載される架橋発泡性材料に被覆された発泡性材料を、引用文献3に記載される方法により製造することは当業者が容易になし得ることである。

そして、架橋発泡性材料、被覆厚み、発泡性材料のサイズは適宜設定されるものである。

- ・請求項 5、14
- ・引用文献等 1－3
- ・備考：

引用文献1、2にそれぞれ記載された発明において、発泡体の直径、補強体の厚さ、表皮の架橋剤の配合量は適宜調整し得るものである。

- ・請求項 18、20
- ・引用文献等 1－4
- ・備考：

引用文献4には発泡複合体の用途として、6枚の発泡複合体の板を組み合わせさせた断熱箱、発泡複合体にモータ、電池をつけたポートが記載されている。

（なお、請求項18に係る発明について、発明の詳細な説明には、モータースクリューが取り付けられた浮揚材についての記載はあるものの、浮揚材が、電池及びスイッチを有することの記載があるかについて疑義がある。）

- ・請求項 21
- ・引用文献等 1－3、5
- ・備考：

底板の4辺に溝を介して側板がつながった板状体を折り曲げて箱を組み立てることは引用文献5にも記載されるように周知である。

<理由3>

- ・請求項 24

「必要に応じ」は発明の範囲を不明確にする表現である。

<理由4>

- ・請求項 4、6～29

請求項4に係る発明は「ポリオレフィンの粒状体として、ポリオレフィンのロッドにプラスチックを被覆し冷却して切断して得た、ポリオレフィンの表面の一部にプラスチックの被覆を有する粒状体を用い、均一な厚さの表皮と補強体が帯状、紐状又は塊状で発泡体と混在したコアの・・・発泡複合体の製造方法」に係る発明である。

しかしながら、発明の詳細な説明には、粒状体の製造方法について、ポリオレフィンのロッドにプラスチックを被覆し、溶融状態のうちに圧縮切断するもの、及び、ポリオレフィンの表面の一部にプラスチックの被覆を有する粒状体を用い、帯状、紐状又は塊状の補強体が形成されるものの記載はあるものの、ポリオレフィンのロッドにプラスチックを被覆し冷却して切断するものの記載はなく、また、発明の詳細な説明の記載より自明とも解されない。

- ・請求項 6～29

請求項6に係る発明においては、「プラスチックの粉末又は細粒が、1乃至10 PPHRの発泡剤を含む」とされる。

しかしながら、発明の詳細な説明には、粉末プラスチックに発泡剤を混ぜることの記載はあるものの、粉末・細粒プラスチックへの配合量についての記載はなく、また、発明の詳細な説明の記載より自明とも解されない。

- ・請求項 7～29

請求項7に係る発明においては、「架橋発泡するポリオレフィンを被覆するプラスチックが、発泡剤を1乃至10 PPHRを含む」とされる。

しかしながら、発明の詳細な説明には、粒状体の被覆に架橋剤と発泡剤を入れて発泡させることができることの記載はあるものの、被覆への発泡剤の配合量についての記載はなく、また、発明の詳細な説明の記載より自明とも解されない。

- ・請求項 15

請求項7に係る発明においては、「大きなドラムを作り、該ドラムに放射性廃棄物を入れたステンレスのドラムを入れ、二つのドラムの間に100℃では溶融し、40℃では溶融しない低分子ゴムを入れ、蓋をして保管する」とされる。

しかしながら、発明の詳細な説明には、高レベル放射性廃棄物のガラス固化体

を入れた金属製ドラム缶を補強体付き発泡複合体で作った大型ドラム缶に入れ、二つのドラム缶の間に、高温では流動するが室温では流動しないポリブテン等の厚い層を作り、叠をするものの記載はあるものの、金属製ドラム缶の素材、二つのドラム缶の間に入れる物質の熱的特性についての記載はなく、また、発明の詳細な説明の記載より自明とも解されない。

・請求項 17

請求項 17に係る発明は、「角柱に両端面及び端末に続く 4 側面に夫々正方形の孔 4 つを作り、該孔 2 個を合わせた大きさの結合部品を使用して角柱を結合し、さらに孔のある板を結合部品により取り付け付けた建築材」に係る発明である。

しかしながら、発明の詳細な説明には、簡易建物等の製法についての記載はあるものの、上記形態の建築材についての記載はなく、また、発明の詳細な説明の記載より自明とも解されない。

・請求項 25

請求項 25に係る発明は、「発泡複合体を作成し、閉ざされた金属体の中に該発泡複合体を入れ、金属体に接着した複合体」に係る発明である。

しかしながら、発明の詳細な説明には、閉ざされた金属体等についての記載はない。

引用文献等一覧

1. 特開 2002-192548 号公報
2. 特開 2001-98577 号公報
3. 特開平 8-118375 号公報
4. 椎名 直礼, ポリエチレン発泡複合体の同時成形, プラスチックス 7 月号, 日本, 株式会社工業調査会, 2001 年 7 月 1 日, 第 52 巻第 7 号, p 77-82
5. 実願平 3-2038 号 (実開平 4-100430 号) の CD-ROM

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野

IPC
B29C 44/00
B29B 9/06

・先行技術文献

特開昭 49-23863 号公報
特開昭 49-38966 号公報
特開昭 49-71054 号公報
米国特許第 3814778 号明細書

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ等は下記までご連絡下さい。

特許審査第三部 プラスチック工学 上坊寺 宏枝
TEL. 03(3581)1101 内線 3430 FAX. 03(3501)0698